

酸化チタン光触媒

酸化作用や超親水作用を使って、
セルフクリーニングや環境浄化に活用

酸化チタン自体の硬度が低めで、
ガラスやアルミナなどの母材より
先に劣化が進行

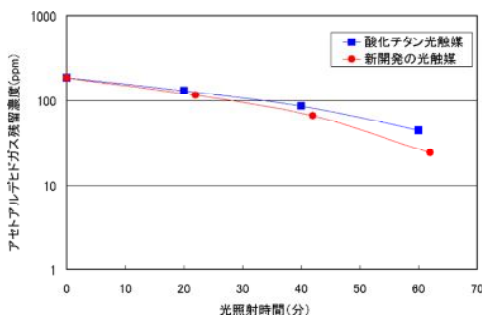
「光を活用した半永久的な効果の持続」
というメリットを活かすことができない。

光触媒の機能性を低下させずに耐久性を向上させたい。

ナノ複合化手法を用いた材料の改質

①光触媒の機能性確保(酸化作用・超親水作用)

【酸化作用による有機物分解反応試験】



【超親水作用による水はじき試験】

	酸化チタン光触媒	新開発の光触媒
表面における 水の接触角	4.9°	6.2°

②皮膜の透明度の確保

	酸化チタン光触媒	新開発の光触媒
皮膜の色調	無色透明	無色透明

③皮膜強度の向上

	酸化チタン光触媒	新開発の光触媒
皮膜の鉛筆硬度試験結果	3H	9H ↑